

# 平成22年度全国学力・学習状況調査における結果と分析の概要

大阪狭山市教育委員会は、平成22年度全国学力・学習状況調査の結果の概要を、保護者、市民の皆様、学校に対して公表します。

## 1. 本調査の概要

本調査は、文部科学省が、市町村教育委員会の協力を得て実施するものです。

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る  
そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する  
学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

### (2) 調査の対象学年

小学校第6学年 中学校第3学年

### (3) 児童生徒に対する調査の内容

#### 教科に関する調査(国語、算数・数学)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
[国語A、算数・数学A]	[国語B、算数・数学B]
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

#### 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査(児童質問紙 生徒質問紙)
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 例：朝食を毎日食べていますか。 自分には、よいところがあると思いますか。 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。 国語(算数・数学)の勉強は大切だと思いますか。

#### (4) 調査の方式

平成19年度から21年度までの悉皆調査の結果、全国及び各地域等の信頼性の高いデータが蓄積され、教育に関する検証改善サイクルの構築も着実に進んでいることから、22年度調査においては、これまでの調査と一定の継続性を保ちながら、調査方式を悉皆調査から抽出調査及び希望利用方式に切り替えて実施されました。

#### (5) 調査日時

平成22年4月20日(火)

#### (6) 4月20日に抽出調査を実施した学校・児童生徒数

	抽出調査校	希望利用校	参加学校数(参加率)	参加児童生徒数
小学校	1校	6校	7校(100%)	628人
中学校	0校	3校	3校(100%)	496人

## 2. 調査結果について

本市では平成19年度より3年間、小学校6年生と中学校3年生を対象に、文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施してきましたが、平成22年度は悉皆調査ではなく抽出方式となり、市全体の傾向や学校毎、児童・生徒個々の学力の状況について把握することが困難になりました。

本年度、抽出調査対象校は小学校1校ですが、他の6つの小学校、3つの中学校は希望利用校として参加し、すべての学校において実施しました。各学校がまとめた「結果と考察」に基づいて各校との話し合いを行い、大阪狭山市としての概要をまとめました。

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、これまでの教育活動の成果と課題を検証し、その改善を図ることをめざします。

本調査により測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面を示すものです。

本調査には、生活習慣や学校環境についての調査も含まれており、地域・家庭との一層の連携を深めることをめざします。生活習慣や学習環境は、学力と密接な関係があり、家庭と学校が連携して取り組む必要があります。

## < 小学校 >

---

### 国語 A

---

各領域について、概ね理解し良好な結果です。出題された漢字の読み書きについては、ほとんどの児童が理解しています。

「説明的な文章の内容を的確に押さえながら読む」「文章に登場する人物を相互に関係付けて読む」などの「読むこと」の領域は、概ね理解しています。今後も基礎基本の学習を積み重ねて、より確実な学力の定着をはかっていくことが大切です。

---

### 国語 B

---

目的や意図に応じて必要な情報を関連づけて読み、理由を明確にして説明することに課題があります。無解答率は全体的に低い傾向にありますが、記述式の問題で無解答率が高くなる課題もあります。文章を読んで思ったことなどを、理由を明確にして伝える力の育成のために、普段の授業で発表の場を多く設定することが大切であり、資料や図の活用により自分の考えや思いを伝える手段を身につけさせていく必要があります。

---

### 算数 A

---

計算問題を含め基本的な内容は理解が進んでいるようです。これまで取り組んできた反復学習の成果と考えられます。より充実させて、より高い定着をめざすことが必要です。

分数や割合、図形の定義や性質についての理解という点で不十分な面がみられます。既習事項をしっかりと身につけさせる復習や家庭学習などの取組みが求められます。

---

### 算数 B

---

全般的に概ね良好な結果がみられますが、図形における数学的な考え方に課題がみられます。問題解決型の学習を取り入れた授業を展開し、自分の考えを言葉や図また式を用いて説明する力の育成が重要です。考えを書くノートづくりや様々な問題に取り組める環境づくりなどの工夫が必要です。

---

## 質問紙調査にみえる児童の生活習慣や学習環境のようす

---

全体の傾向として次のような特徴がみられます。

朝食をきちんと取るなど、基本的な生活習慣は概ね身につけている。

家や図書館での読書時間が概ね取れており、読書が好きと答える児童が多くいる。

「約束を守る」や「困っている人を助ける」「あいさつ」など対人関係の質問に対して肯定的な回答が多い。

将来の夢や目標をもっている割合が少ない。

テレビゲームをする時間が長い傾向にある。

地域の行事に参加する児童が少ない

授業で、本やインターネットを使ってグループで調べる活動、話し合う活動が少ない傾向にある。

## < 中学校 >

---

### 国語 A

---

基礎的・基本的な内容は概ね理解ができている様子が見られます。特に適切な語句を選択する問題への対応はよくできています。

内容を読み取ったり、話し手の意図を考えながら聞き取ったりすることなどに課題が見られます。

基礎学力を定着させるために反復学習を継続し、知識や技能をきちんと身につけさせることが必要です。

---

### 国語 B

---

自分の考えをまとめ、説明を記述する問題で正答率が低く、無解答率が高くなっています。

必要な情報を取り出す「読む力」、自分の考えを「書く力」等を育成できる、きめ細かな授業の展開を図ることが求められます。

また国語だけでなく、すべての教科・領域で自分の考えをまとめ、発表する機会をもつなど、あらゆる場面で言語活動の充実が必要です。

---

### 数学 A

---

計算問題は正答率が高く、基礎的・基本的な事柄について学力の定着はみられます。

例題を参考にして答えを導いたり、数学的用語の理解を求めたりする問題について正答率が低く、課題です。学力の2極化傾向も見られます。反復学習に粘り強く取り組んだり、少人数・習熟度別指導を充実させたりすることが必要です。

---

### 数学 B

---

与えられた事象から数量関係を理解し、説明する力に課題があります。

数学的用語の理解を求める問題や記述問題・短答式問題においては無解答率が高いのが課題です。

考え、発表し、確認しあえる授業づくりに取り組むことや、定期テスト等の問題についても数学的な表現力を高められるようなものを取り入れる等の工夫が求められます。

---

### 質問紙調査にみえる生徒の生活習慣や学習環境のようす

---

全体の傾向として次のような特徴が見られます。

朝食は概ねきちんと取れている。

家で学校の宿題をする生徒、友達との約束を守ると回答する生徒が多い。

授業で、本やインターネットを使ってグループで調べる活動が取り入れられている。

ものごとを最後までやりとげてうれしかった経験が少なく、自分には、よいところがあると思っている生徒が少ない。

携帯電話で通話・メールをしている生徒の割合が高い。

新聞・テレビのニュースに関心のある生徒が少ない。

地域の行事への参加が少ない。

## < 結果にみられる成果について >

各学校において学力向上に向けて様々な取組みをすすめています。基礎的・基本的な内容の定着や活用の問題に対する前向きな姿勢などにそれらの成果が表れていると考えられます。

始業前に朝の学習として読書や計算、漢字練習、音読などに取り組んでいます。

国語、算数・数学、英語などの授業では習熟度別指導を含む少人数指導が定着しています。

授業では子どもたちに考えさせる場面、考えをまとめて発表する場面などを多く取り入れています。

授業研究を中心にした校内研修の充実を図っています。

学校独自で「学習ワーク」や「学習のてびき」などを作成し、子どもたちが自主的な学習に取り組めるよう支援しています。

放課後、地域の人にも協力していただき学習支援を行っています。

## < 今後の方針と取組み >

基礎的・基本的な内容については、授業や家庭学習を通して、漢字、計算などの反復練習を行い、しっかりとした基礎固めを継続して行うことが必要です。

習熟度別指導を含めた少人数指導など、授業方法の工夫改善の取組みをさらに進め、個に応じた指導の充実を図ることにより、基礎学力の確実な定着と活用できる力の育成をめざすことが求められます。

小・中学校それぞれの課題に応じた授業改善を推し進めることが必要です。「書くこと」や「話し合うこと」、「発表すること」などといったテーマをもって校内の研究体制を確立し、具体的な授業研究、授業改善を進めることが求められます。

学習活動の基盤となる基本的な生活習慣の確立や規範意識の向上、家庭学習の確保と充実のため、学校・家庭・地域の連携をさらに強めることが必要です。

## 教育委員会の取組みについて

毎年「スピカプラン」(保育教育指針)を策定し、各学校園で特色のある取組みを進めています。

平成21年度に「学力向上 PATH(パス)プラン」を策定し、府の「市町村支援プロジェクト」も活用して学力向上を核とした取組みを進めています。

保育、授業等の実践的取組みや指導の連携を進めるとともに、教職員研修を充実し、指導力の向上を図ります。

子どもの自主的な読書活動を推進するため、「読書 e プラン」をもとに就学前から中学校卒業後までを見通した読書環境づくりに努めます。

子どもたちの基本的な生活習慣の確立や家庭学習の定着を図るため、おおさかさやま家庭教育指針「家庭教育への10(9+1)の提言」の啓発をさらにすすめてまいります。

「家庭教育への10(9+1)の提言」は[こちら](#)をご覧ください。

## 各学校の分析・取組みについて

### 各学校で成果や課題を分析し、教育活動の改善に活かしています

これまでの学校における取組みをふり返り、今後の指導改善に活かすよう教職員全体で取り組んでいます。

成果と課題、今後の取組方針などについて、各学校と教育委員会が話し合い、共通理解を深めました。新しい学習指導要領への移行をすすめながら、教育課程の編成を工夫していきます。

各小中学校のホームページに学校でまとめた「結果と考察」があります。下からもリンクしています。

<a href="#">東小学校</a>	<a href="#">西小学校</a>	<a href="#">南第一小学校</a>	<a href="#">南第二小学校</a>	<a href="#">南第三小学校</a>
<a href="#">北小学校</a>	<a href="#">第七小学校</a>	<a href="#">狭山中学校</a>	<a href="#">南中学校</a>	<a href="#">第三中学校</a>